

令和元年度第1回伊勢志摩地域医療構想調整会議（概要）

【開催日時】 令和元年11月5日（火） 19:30～21:00

【議 題】

1 病床機能の分化・連携について

(1) 平成30年度病床機能報告の結果について

- ・ 令和元年7月時点の伊勢志摩地域の病床総数は2,030床で前年比22床減
- ・ 町立南伊勢病院の新築移転に伴うダウンサイジングで直近（令和元年11月時点）ではさらに26床減の2,004床
- ・ 2025年には、さらに19床減の1,985床の予定であるが、必要病床数と比較すると依然として約300床が過剰となる見込み

(2) 令和元年度定量的基準の結果及び定量的基準の改定について

- ・ 病床機能報告と必要病床数を比較するため、地域急性期という新たな概念を取り入れた三重県独自の定量的基準を昨年度導入
- ・ 定量的基準については、病棟単位ではなく病床単位での医療機能の評価を求める意見も多数あったことから、一部について病床単位で医療機能をできるよう基準を改定
- ・ 令和元年7月時点の医療機能別病床数に対して、定量的基準を適用した結果、2025年の必要病床数と比較すると、高度急性期は115床、急性期は57床、回復期は204床がそれぞれ過剰となり、慢性期は88床不足する状況

(3) 2025年に向けた具体的対応方針について

- ・ 国が各医療機関の診療実績を分析し、一定の基準に該当する424の公立・公的医療機関等を「再編統合について特に議論が必要な医療機関」と位置づけ公表
- ・ 伊勢志摩区域では市立伊勢総合病院および町立南伊勢病院の2施設が該当（2施設とも病院の新築移転に伴い既にダウンサイジング済み）
- ・ 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の見直しについては、地域の実情をふまえながら、個別の医療機関単位だけでなく、地域全体の医療提供体制の将来像を見据えて協議
- ・ 今年度の具体的対応方針については、機能転換や病床規模の適正化に係る補助の活用も視野に入れつつ、合意率の向上に取り組む

2 在宅医療体制の整備について

- ・市町における在宅医療・介護連携の状況等について、県で実施したアンケート調査をもとに報告

3 医師確保計画及び外来医療計画について

- ・医師の地域偏在の解消等による地域の医療提供体制の整備を目的として「医師確保計画」を本年度策定
- ・外来診療機能の偏在・不足への対応や医療機器の効率的な活用を目的に「外来医療計画」を本年度策定